

# 思考力を重視した探究的な学びで 社会問題に自ら立ち向かう意欲・力を育成

## 社会で生きる力の育成へ 総合学科への改編

1973年に普通科高校として開校した愛知県立南陽高校は、普通科コース制を経て、2007年に総合学科となった。改編当時は指導が困難な状況にあり、進路未定のまま卒業する者も少なくなかったという。

「生徒にどう社会で生きていく力を付けたら良いか。当時の教員が頭を悩ませ、県教委の支援を受けて出した結論が、総合学科への改編です。それから約10年、生徒の個性や主体性を重視する総合学科の特色を生かし、生徒のやる気や興味関心を引き出そうと努力してきました(校長・金尾正枝先生)」。同校には現在、7つの系列がある(図1)。2年次から系列に分かれ、100以上の選択科目から各系列に即した学習をしている。

## 思考力のベースをつくる 「産社」「総学」プログラム

すべての系列の学びの土台となっているのは、「産業社会と人間(産社)」と「総合的な学習の時間(総学)」で展開する、3年間のキャリア探究プログラムだ(図2)。進路や科目選択に直接的に関わることのほか、1年次の「産社」では人間関係トレーニングや社会への視野を広げる学習を行い、2年次「総学」ではグループで課題解決型の学習にも取り組む。3年次「総学」では集大

成として、各自の進路に関するテーマを設定して卒業研究に取り組む。

このプログラムでは一貫して思考力の育成を重視している。そのため1年次から徹底的に「書かせる」。毎回の授業では、少なくとも2ページあるワークシートで考え方の切り口を示し、それに従って書くことで考えを深める。

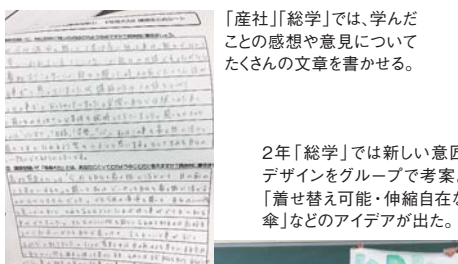
「話を聞いたり調べたりするだけでなく、文章にまとめるという作業を加えることで、知識として定着させ、論理的に考える力や文章表現力を育むと考えています」(植植政志先生)。

プログラムのコンテンツは改善を重ねてきた。例えば、数年前、2年次のプログラムに知的財産教育を導入。知的財産に関する講習を行ったうえで、日常的に困っていることを解決する新しい意匠デザインをグループで考案し、発表会を行うようになった。

その効果もあって、3年次「卒業研究」の内容が近年ぐんとレベルアップしたという。生徒が設定するテーマは、以前の「コンピューターの歴史」「犬について」など漠然としたものから、「インターネットの発展と危険」「日本の警察と外国の警察の共通点・違う点」のように具体化。焦点が絞られ、研究に深みが出るようになった。また、インターネットからの単純な引用は減り、アンケート調査や実験、観察など独自の情報収集を行って考察する例も増えている。「2年次で課題を見つけて解決策を考える」という探究のプロセスを経験する

図1 7つの系列

総合探究系列	世界の出来事や社会問題を取り上げ、グループ討論などを通して視野を広げる。
人文国際系列	文学や語学、社会の仕組みや歴史などを学ぶ文系大学・短大への進学を目指す。
自然科学系列	理科や数学、工学などを学ぶ理系大学への進学を目指す。
情報ビジネス系列	情報、流通、簿記などを体験的に学ぶ。
福祉ネットワーク系列	福祉について詳しく学ぶ。
フードコーディネート系列	調理や栄養について詳しく学ぶ。
ライフクリエーション系列	さまざまな体験的学習や、資格取得に取り組む。



「産社」「総学」では、学んだことの感想や意見についてたくさん文章を書かせる。

2年「総学」では新しい意匠デザインをグループで考案。「着せ替え可能・伸縮自在な傘」などのアイデアが出た。



取材・文／藤崎雅子

図2 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」のプログラム概要

年	目標	キャリア探究の活動
1年生	将来の進路や自己について知り、進路実現に向けた基本的な考え方を学び、将来の進路目標を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学問について知る</li> <li>・卒業後の進路を考える</li> <li>・職業について知る</li> <li>○進路意識向上</li> <li>○科目選択</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会について知る</li> <li>○社会問題を知り視野を広げる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書く</li> <li>・自分の考えをまとめ発表する</li> <li>○表現力育成</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己分析</li> <li>・人間関係トレーニング</li> <li>・他者理解</li> <li>○コミュニケーション力育成</li> </ul>
2年生	実際に行動してみ、自己を振り返るとともに、進路実現に向け基礎力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク</li> <li>・グループでの探究活動</li> <li>○進路意識向上</li> <li>○進路実現への意欲</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標についての研究</li> <li>○協調性の育成</li> <li>○表現力の育成</li> </ul>
3年生	高校3年間の学びの集大成として、自分の考えをまとめ表現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業研究</li> <li>○問題設定力・問題解決力の育成</li> <li>○進路意識向上・進路実現に向けた研究</li> <li>○表現力・プレゼンテーション能力の育成</li> <li>○他者と関わる実践力育成</li> </ul>



総合探究系列の授業では、付箋を使ったグループワークやKJ法による分類などを行う。



商業科目の授業で、地元企業のインターネット販売ページの制作に取り組んだ。



総合探究系列担当  
佐久間綾花先生



キャリア担当  
廣嶋あかね先生



総合学科推進担当  
柘植政志先生



教務主任  
小味隆浩先生



校長  
金尾正枝先生

「書く」ことを重視しており、単元ごとに1000字のレポートを課す。授業がきっかけとなって、生徒が自ら社会のために立ち上がることもある。昨年度、外部講師からカンボジアの地雷被害に関する講話を聞き、衝撃を

こうしたベースの上で、各系列は特色ある教育を展開している。例えば、国立公立大学進学も見据える総合探究系列には、さらなる思考力育成と国際的視野の拡大を目指す、2つの学校設定科目がある。1つは2年次「総合探究入門」で、愛知大学や愛知工業大学と連携し、異文化理解やハザードマップ作成などに取り組む。もう1つの3年次「ワールドスタディーズ」では、JICA中部の協力も得て、貧困や教育などの国際社会の諸問題について学ぶ。やはり「書く」ことを重視しており、単元ごとに1000字のレポートを課す。

## 社会に対し自分たちが できることを考える

ことで、卒業研究に向けて段階的に思考力を育めるようになったと感じています（廣嶋あかね先生）

### 生徒が起点となった活動例



●カンボジア地雷撤去支援  
カンボジアの地雷撤去に取り組むNPO法人の話がきっかけとなり、総合探究系列の生徒は各クラスを回ってカンボジアの現状を伝え、地雷撤去のための募金を呼び掛けた。

### ●温室効果ガス排出量ゼロ 学校行事

カーボン・オフセットについて学んだ生徒の発案により、体育祭や文化祭でカーボン・オフセット制度を利用したクラスTシャツを着用することになった。さらに、別の生徒からの提案で、文化鑑賞行事も「カーボン・オフセットライブ」にするなど広がっている。



### ●Nanyo Company部

2010年に有志生徒により発足した活動部。フェアトレード商品や地産食材を活用した商品開発、カーボン・オフセット制度を活用した商品開発などに取り組んでいる。第4回eco-1グランプリ文部科学大臣賞、2017愛知環境賞中日新聞社賞など受賞。



また、情報ビジネス系列が履修する情報系・商業系科目では、社会との接点のなかでの体験的な学習が充実している。科目「電子商取引」と「マーケティング」では、楽天が提供する授業プログラム

## 正解のない課題が 自己肯定感を高める

「授業では、社会、世界の問題についての知識を提供するだけでなく、常に自分の問題として落とし込み、解決のために自分に何ができるかを考えさせるよう心がけています。きっかけを掴むと、生徒は想定以上にフットワーク軽く行動します」（佐久間綾花先生）

さまざまな授業における生徒の取り組みの質は年々向上しており、進路面では今や進路未定者はほぼいなくな

「学んでいることが社会で生かせるということを感じるのは、地域や企業との連携が最も効果的だと考えています」（柘植先生）  
さまざまな授業における生徒の取り組みの質は年々向上しており、進路面では今や進路未定者はほぼいなくな

### 生徒の多様な力を伸ばす実践ポイント

- ◎ 「産社」「総学」に課題解決学習を取り入れ、3年間の体系的なキャリア探究プログラムを構築
- ◎ 感じたこと・考えたことを徹底的に書かせ発表させる
- ◎ 大学や団体などの専門家を通じ、社会的な課題について情報提供する
- ◎ 企業や地域と連携し、実践的な課題解決学習を取り入れる
- ◎ やりきることで達成感が得られる、正解のない課題を多く設定する

「1000字レポートや商品企画など正解のない活動は、やりきれば認められません。そうした小さな達成感の積み重ねで自己肯定感が高まり、授業のさまざまなきっかけで何かに挑戦しようという意欲にもつながるのではないのでしょうか」（柘植先生）  
今後については、「『総学』などの課題解決型の授業をより生かせるカリキュラムをつくっていきたい」（教務主任・小味隆浩先生）、「地域や社会で学ぶ場を引き続き大切にしていきたい」（金尾校長）と、総合学科ならではの特色をさらに打ち出していく方向だ。